

○第9回研修会（オンライン開催）

全体研修 講話

「発達障がいへの理解と対応 ～個別的な学習場面で行いたい支援について～」

講師 若久小学校LD・ADHD等通級指導教室 教諭 重岡 大志先生

今回の研修では、教育的配慮を要する児童に対する正しい理解をもとに適切な指導や支援が行えるよう研鑽し、日本語指導教員の指導力を向上させることを目標として適応指導の研修を行いました。講話では、・LD・ADHD等通級指導教室・発達障がい・発達障がい児に対する学習場面における必要な支援をテーマにお話を頂きました。学校生活のなかで発達障がいの子どもたちが感じている困難さや指導の実践をたくさんお話して頂き、「ラポール形成」や「構造化（見える化）」「エラーレスラーニング」「ハッピーエンドの法則」「トークンエコノミー法」などについて学ぶことができました。今回の研修で学ばせて頂いたことを、日々の指導に活かし、一人一人に合った支援や指導を工夫していきたいと思います。

感想

- ・自分が担当している児童にも、いろんな特性をもった子がいるので、今日の研修で教えて頂いたことを早速指導に活かしていきたいと思います。
- ・個別の手立てや支援、オーダーメイドの教材の工夫など、日本語の個別指導でも共通することがたくさんあるなと感じました。
- ・大変専門的かつ具体的なお話で、明日からの指導に活かせる内容でした。失敗をさせない指導を！というお話は目からうろこでした。
- ・発達障害に関する問題は、日本語指導を行う私たちにも最近切実な問題になっていましたので、とても関心を持って聞かせていただきました。また学ぶことが多く、これからの指導に生かせそうな内容が盛りだくさんでとてもありがたかったです。
- ・子どもの姿をどう理解しどのような指導を行なうのかについて、たくさんの資料や実践をもとにした話を聞くことができ、とても参考になりました。
- ・指導上の工夫で、見える化の視覚支援や、エラーレスラーニング、ハッピーエンドの法則など、早速明日の授業から行っていきたい工夫を沢山教えていただき、大変勉強になりました。
- ・日本語の学習になかなか意欲的になれない児童もいるので、「日本語の勉強が楽しい」「日本語でコミュニケーションをとりたい」と感じてもらえるような指導を工夫していきたいと思いました。
- ・実際に生徒を思い浮かべながら、お話を伺わせていただきました。集中力が続かないときは、落ち着くまで話を聞いたり、課題のレベルを下げて試したりしています。根気強く指導することが大事だと、改めて感じました。
- ・目に見える行動の後ろには、その行動が起こる原因や背景があることを意識して、子どもたちを見ていきたいと思いました。
- ・普段関わっている子どもたちや、今まで関わってきた子どもたちに対する自分の指導を振り返って、こうすれば良かったのかという発見がたくさんありました。